

支援センター名	蘇陽町体験活動ボランティア活動支援センター
所在地	〒861-3913 熊本県阿蘇郡蘇陽町大字今500番地
連絡先	Tel 0967-83-1751 Fax 0967-83-1752

## 事業の概要とポイント

### ①そよっ子わくわく教室

完全学校週5日制の実施に伴い、休日の子どもの体験活動と居場所を確保することを目的として、第1、第3土曜日にサッカー・茶道・木工・音楽・工芸・学習教室を開講した。

教室開講にあたり、学校を通じ、保護者と子どもを対象に、休日の過ごし方について、アンケートを行い、その結果を基に、指導者を募集し、各教室へ指導者派遣の調整を行った。休日の子どもの体験活動と居場所の確保という目的については、一定の成果を上げた。

### ②子どもデイサービス

生活環境の変化に伴い、子どもたちの社会性、体験不足が囁かれる中、子どもたちの共生の心を育むこと、また、子どもの春季、夏季、秋季休み中の居場所の確保を目的として、子どもデイサービスを行った。

事業を進めるにあたり、ダウン症などの障害を持った子どもが一緒に参加できるよう、専門知識を持ったボランティアコーディネーター補助員を運営の中心とし、婦人会、民生委員、ボランティアグループなどの協力を得ながら、事業を進めた。また、学校を通じ、中・高校生に子どもデイサービスへのボランティア参加の呼びかけを行い、数名の参加を得ることができた。子どもたちは、休み中の宿題、自由研究は下より、交流会や料理教室、パソコン教室、手話教室、マジックショー等のプログラムの中で、思いやりや助け合いの心、共生の心を育むことができた。また、専門知識を持った指導員を運営の中心にすることにより、垣根のない幅広い対応ができたことは、大きな成果であった。

## 関係した学校・団体等の名称

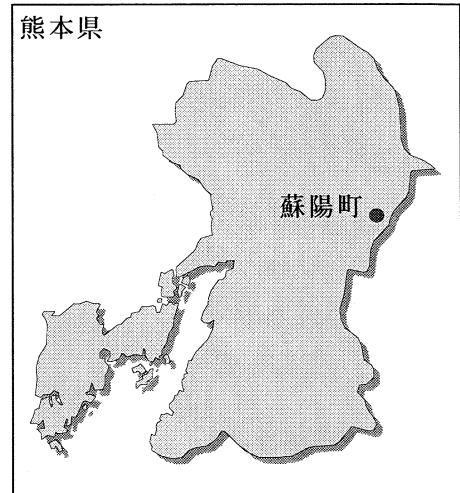
蘇陽町民委員、蘇陽町婦人会、馬見原小学校、大野小学校、菅尾小学校、蘇陽小学校、蘇陽中学校、蘇陽高等学校、お話し会グループ、食改善グループ、蘇陽町老人会

## 地域の現状・特色

活動対象地域の人口 蘇陽町 4,800人

九州の中心にある蘇陽町は、緑豊かな山々と清らかな川が流れる、まさに自然の宝庫である。本地域は、阿蘇南外輪より南西に展開し、次第に低くなって九州山脈に至る広大な広域

で、地域は起伏甚だしく概ね標高450～800mの間に、宅地、耕地、山林原野等が開けている。水流は、東は、宮崎県延岡市に注ぐ五ヶ瀬川、西は、有明海に注ぐ緑川を主流として大小16の支流によりなっている。本町の基幹産業は、農林業が中心で、農林業と健康を結びつけた「健康と福祉の町」を掲げ、有機農法の実践やブルーベリーなどの健康食品の開発に力を入れ、観光開発を進めている。また、都市と農村の交流拠点施設「そよ風パーク」を平成7年にオープンし、本蘇陽町が誇るさまざまな資源を、情報として発信するための中核施設としての役割を担っている。



## 企画から活動までの経緯

### ①そよっ子わくわく教室

- 1, 学校を通じて、保護者・児童生徒に休日の過ごし方について、アンケートを行う。
- 2, 週末の子ども教室を行うための指導者を区長回覧を通じて、募集する。
- 3, 指導者と具体的な事業の内容について、検討会議を行う。
- 4, そよっ子わくわく教室のチラシを配布し、各学校へ児童生徒の参加の呼びかけと取りまとめを依頼する。
- 5, 第1・第3土曜日に、各会場に於いて、指導者の指導の下、そよっ子わくわく教室を開始した。

### ②子どもデイサービス

- 1, 蘇陽町社会福祉協議会と蘇陽町教育委員会において子どもデイサービス事業の運営について検討を行う。
- 2, 蘇陽町校長会に於いて、子どもデイサービス事業の説明を行う。
- 3, 蘇陽町広報誌に、子どもデイサービス開催についての広報を掲載する。
- 4, 蘇陽町総合行政センター教育介護研修室において、夏季、冬季休みの子どもデイサービスを実施した。

## 事例の展開内容（特色など）

### ①そよっ子わくわく教室

完全学校週5日制の実施に伴い、教育委員会内で週末の子どもの居場所を確保するための検討を行った。そこで、町内の小中学生と保護者に週末の子どもの過ごし方について、アンケートを取り、その結果を基に、指導者として協力できる指導員を区長回覧に於いて募集をした。毎回、約30人ぐらいの子どもたちがそれぞれの地域で楽しい時間を過ごした。

### ②子どもデイサービス

社会福祉協議会に於いて、障害を持つ子どもと夏休み期間中の子どもの居場所を確保する

事を目的に、計画され始められた。社会福祉協議会より人的協力について教育委員会に相談があった。そこで、蘇陽町体験活動ボランティア活動支援センターに、障害者の専門知識を持つ指導員をボランティアコーディネーター補助員として配置した。コーディネーターが子どもデイサービスの運営の中心として関わり、学校を通し、中・高校生ボランティアの参加を企画したり、婦人会、民生員、老人会、お話し会グループなどに協力を得ながら、毎回、20～30人の子どもたちが充実した毎日を過ごした。

## **企画・活動する上でのポイント、留意点など**

コーディネーターは、子どもたちが休日をどのように過ごしたいと考えているかを理解し、活動内容を計画する必要がある。計画に当たっては、親と子どものしたいこと、させたいことのニーズが違うので、教室のを選定する上で、アンケート等の調査を行い、内容の調整を行うことが大切である。また、内容については、飽きの来ないプログラムに心がけ、自然に触れる川遊びなどが効果的である。それから、ダウン症などの障害を持つ子どもと、障害を持たない子どもとが、共に楽しく過ごすために、専門知識を持つ指導員を配置し、子どもたち同士のパイプ役として、指導を行うことは重要である。

## **評 価**

各地域において子ども教室等を行うには、地域の指導者の協力が不可欠である。そよっ子わくわく教室や子どもデイサービスを実施することにより、人材バンクの整理と地域住民、及び中・高校生ボランティアの意識を高めることができた。また、障害児の専門知識を持つコーディネーターを配置したことにより、子どもたちの受け入れの幅が広がり、柔軟且つ、充実した事業を展開できた。今後は、この2つの活動を拠点とし、新たな活動場所を開拓していきたい。

